

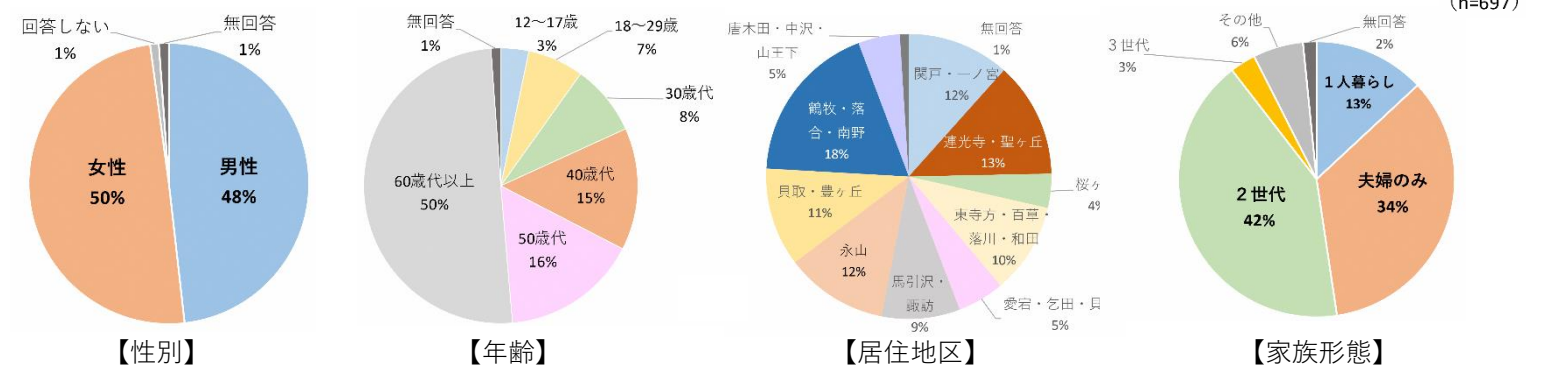
1 調査概要

調査目的	身近な環境の評価、環境保全のための取組状況、今後の環境施策に期待することなどについて聞き、次期計画に反映する
調査対象者	市内在住の12歳以上の男女
抽出方法	住民基本台帳による層化無作為抽出法
調査方法	郵送による配布、郵送及びwebによる回収(無記名方式)
実施期間	令和4年11月15日～12月2日
配布数	2,000通
回収数	697通(郵送回収569通、web回収126通)

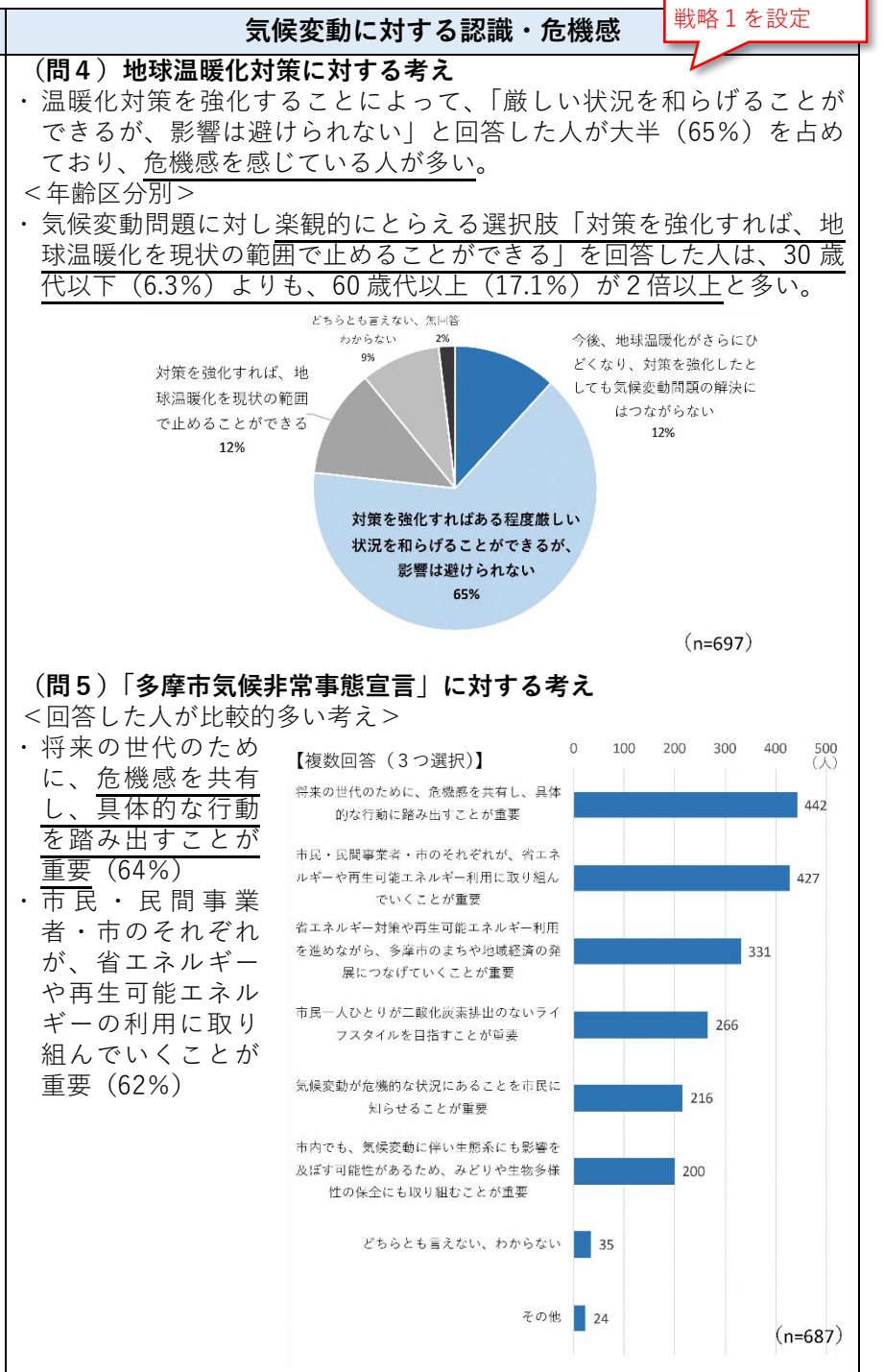
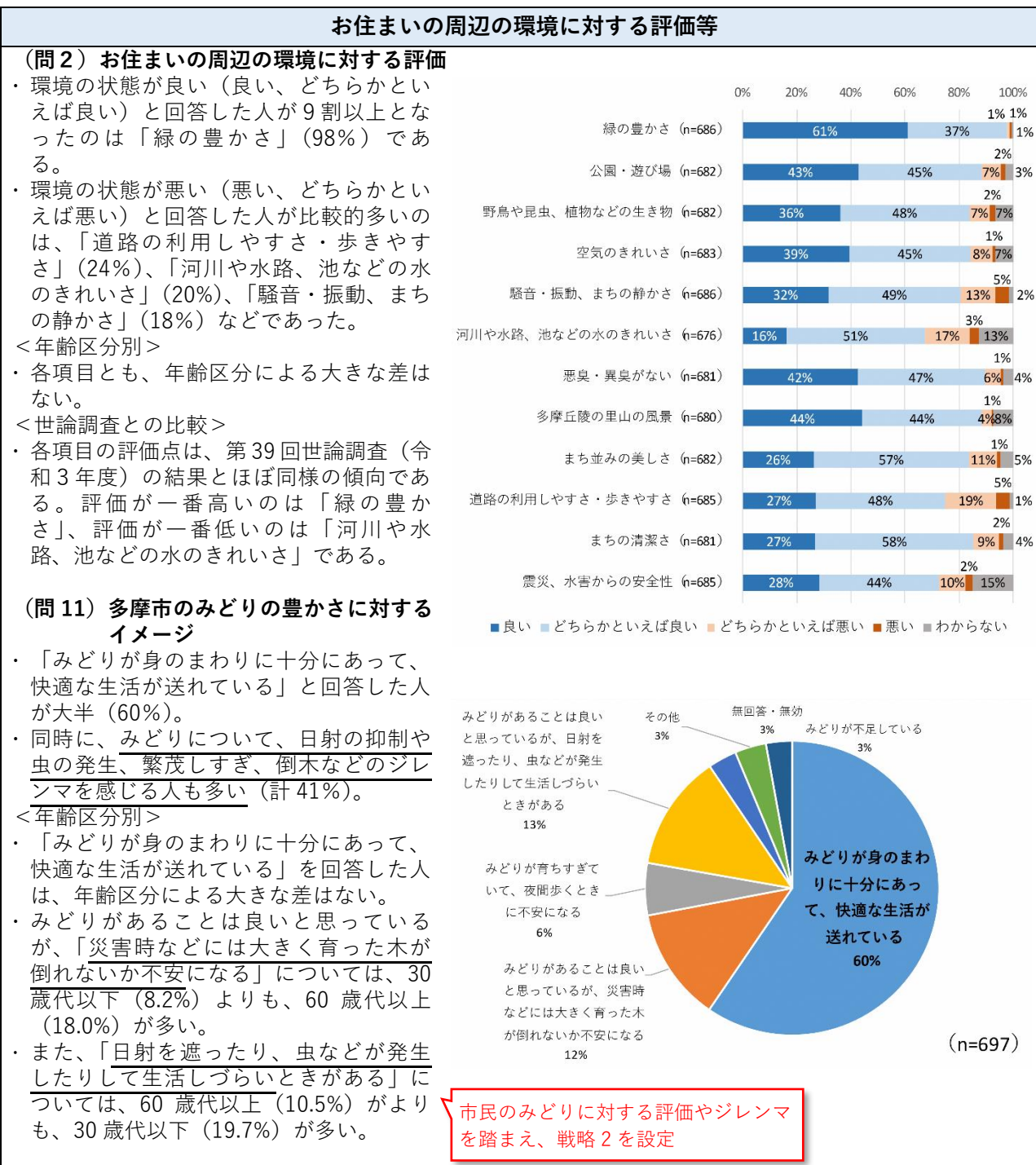
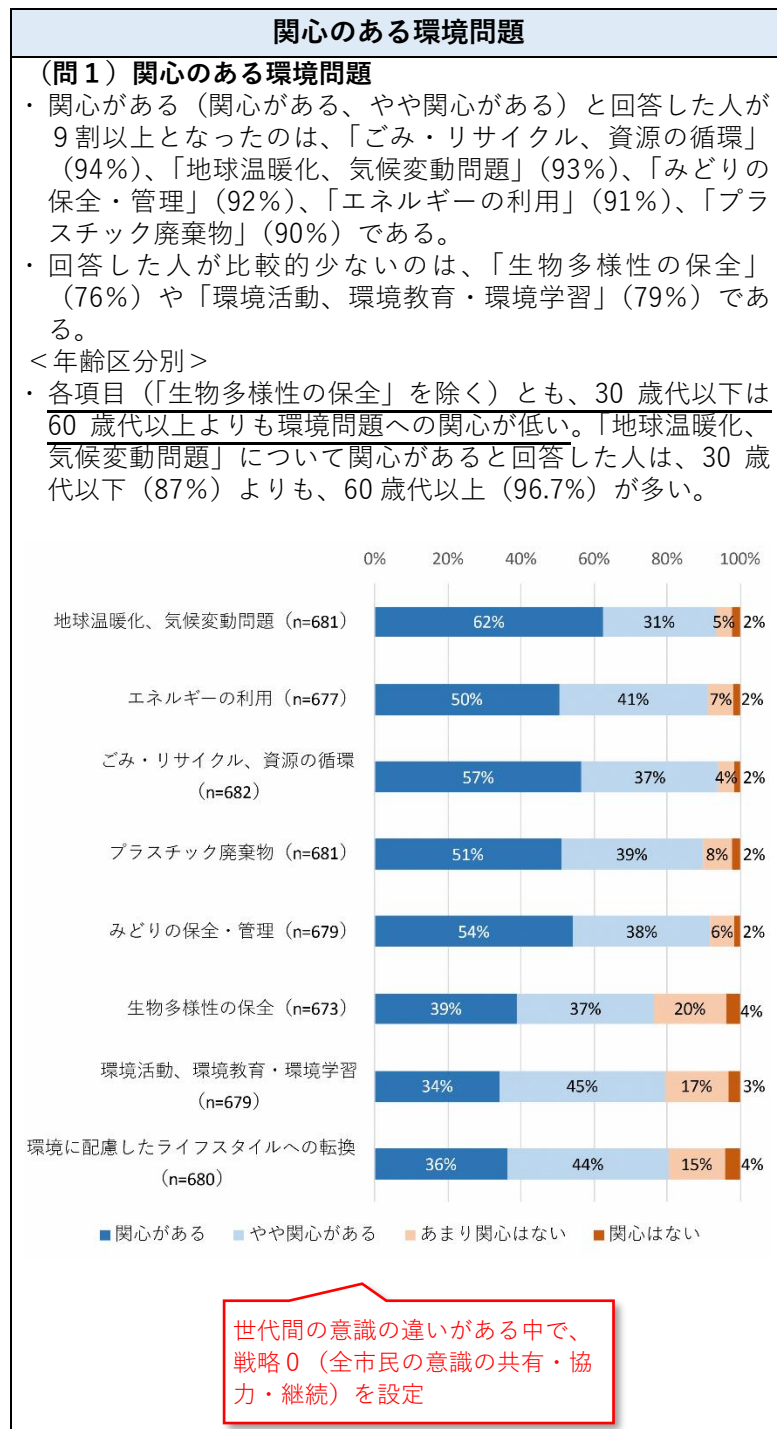
●回収数(年齢別)

年齢・年齢区分	配布数	回収数	回収率
12～17歳	110	23	20.9%
18～29歳	255	46	18.0%
30歳代	228	58	25.4%
30歳代以下	593	127	21.4%
40歳代	325	100	30.8%
50歳代	324	112	34.6%
40・50歳代	649	212	32.7%
60歳代以上	758	350	46.2%
無回答	-	8	-
合計	2,000	697	34.9%

●回答者の属性



2 調査結果(環境全般)





3 調査結果（分野別整理）

	気候変動・エネルギー利用について	資源循環・プラスチック対策	みどりの保全・育成、生物多様性の保全	環境活動
考え・認識	<p><b>(問3) 気候変動による影響への不安</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風水害や暑熱による気象災害をはじめ、食生活や自然生態系など広範に影響が及ぶことが認識されている。</li> <li>&lt;不安を感じると回答した人が多かった影響&gt;</li> <li>大型台風や大雨による洪水や土砂災害の発生増加 (85%)</li> <li>穀物などの農作物の収穫量の減少 (70%)</li> <li>気候の変化による身近な自然への影響 (57%)</li> <li>気温が上昇することによる、熱中症による患者の増加 (56%) など</li> </ul> <p>気候変動影響への不安を踏まえ、戦略1・取組方針Fに反映</p>	<p><b>【複数回答】</b></p> <p>(n=691)</p>	<p><b>(問10) 市内のみどりに期待する機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回答した人が比較的多いのは、「やすらぎ・季節感の提供」(47%)や「生物の生息・生育の空間」(37%)。</li> </ul> <p><b>(問13) 市内で積極的に守り育てるべきみどり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「市内に残されたまとまりある樹林地」(56%)や「街路樹などの道路のみどり」(55%)を回答した人が多い。</li> </ul> <p><b>(問17) 市内での外来生物への対応に対する考え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の外来生物について、「人間生活や生態系に影響があるものを駆除すべき」と回答した人が多い(68%)。</li> </ul> <p>(n=697)</p>	<p><b>(問19) 地域での環境保全活動に取り組むべき主体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「市民・市民団体、民間事業者、行政が役割分担の上、協働で管理すべき」と回答した人が最も多い(47%)。</li> <li>&lt;年齢区分別&gt;</li> <li>「(略)協働で管理すべき」は、30歳代以下(31.7%)や40・50歳代(47.8%)よりも、60歳代以上(55.2%)が多い。</li> </ul> <p>(n=697)</p>
取組状況、今後の意向	<p><b>(問6) 省エネ、再生可能エネルギー利用への取組み</b></p> <p>&lt;実施している人が50%以上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>節電に心がける(81%)</li> <li>照明をLEDに切り替える(71%)</li> <li>家電製品の買い替えの際には、省エネ性能の高い製品を選ぶ(58%)</li> <li>できるかぎりマイカーに乗らず、徒歩・自転車や公共交通機関を利用する(54%)</li> </ul> <p>&lt;実施している人が10%以下&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再エネ由来の電気に切り替える(8%)</li> <li>太陽光パネルを導入する(5%)</li> <li>蓄電池を導入する(5%)</li> <li>自動車を使う際には、カーシェアリングを利用する(5%)</li> <li>家庭用エネルギー管理システムを活用(4%)</li> </ul> <p>&lt;今後実施したい人が30%以上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再エネ由来の電力に切り替える(51%)</li> <li>家電製品を買い替えの際には、省エネ性能の高い製品を選ぶ(36%)</li> <li>断熱性の高い窓にする(35%)</li> </ul> <p>重点取組項目 1-1・1-2 や取組項目 G1・H1 に反映</p>	<p><b>(問8) 資源循環やプラスチック対策への取組み</b></p> <p>&lt;実施している人が50%以上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マイバッグやマイボトルを使う(88%)</li> <li>洗濯洗剤などをなるべく詰め替えて使う(88%)</li> <li>生ごみは水切りしてから捨てる(81%)</li> <li>食べ残しをしない、食材の買い物や保存などでの食品ロス削減に工夫する(79%)</li> <li>必要以上に買すぎない(73%)</li> <li>モノを再利用する(58%)</li> </ul> <p>&lt;実施している人が10%以下&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生ごみの堆肥化を行う(9%)</li> <li>買うよりレンタルする(8%)</li> </ul> <p>&lt;今後実施したい人が30%以上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品を選択する際には、環境配慮マークやCO2排出量の表示を参考に商品を選ぶ(52%)</li> <li>使い捨てのプラスチック製品をなるべく使わない(38%)</li> <li>モノを再利用する(32%)</li> <li>壊れたモノを修理して使う(31%)</li> <li>買うよりレンタルする(31%)</li> </ul> <p>重点取組項目 3-1・4-4 や取組項目 13・15 などに反映</p>	<p><b>(問12) みどりの保全・育成や生物多様性の保全の取組み</b></p> <p>&lt;実施している人が50%以上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野生の動植物をむやみに獲らない(79%)</li> <li>家庭で花や木を育てたり、屋上や壁面を緑化したりする(51%)</li> </ul> <p>&lt;実施している人が10%以下&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然観察会や農業体験、川遊びなどの自然に親しむイベントに参加する(8%)</li> </ul> <p>&lt;今後実施したい人が30%以上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品を選択する際には、生物多様性に配慮された製品であることを示す表示を参考に商品を選ぶ(41%)</li> <li>地元の農作物や旬の食材を選ぶ(36%)</li> <li>公園緑地や道路などでの花壇や植栽の管理、清掃活動に参加する(31%)</li> </ul> <p>重点取組項目 3-1・3-2・5-2 や取組項目 A4 などに反映</p>	<p><b>(問20) 環境啓発イベントや環境学習の機会への参加について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加している又は参加したいと考えている人は62%。このうち「参加したいが、難しい」と回答した人は35%。</li> <li>参加したい理由：「環境保全や持続可能な社会づくりに関心がある」、「知識・経験を得たい」、「地域やSDGsに貢献したい」の順。</li> <li>参加が難しい・参加しない理由：「活動する日程・曜日が合わない」が多い。「高齢のため」「体力・体調的に難しい」などの自由回答も多い。</li> </ul> <p>(n=697)</p> <p>重点取組項目 5-1 や取組項目 C2・L3 などに反映</p>
施策への支持	<p><b>(問7) 省エネ・再エネ利用の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支持する人が80%を上回った施策は、「再生可能エネルギー由来の電気の利用促進」(90%)と「電気自動車や燃料電池車など、次世代自動車の普及促進」(84%)。</li> <li>「新築及び既存の住宅・建物での太陽光発電の導入促進」については、支持しない人が8%。</li> </ul>	<p><b>(問9) 資源循環・プラスチック対策の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各施策とも支持する人は80%以上。</li> <li>支持しない人が比較的多い施策は、「ペットボトルの販売量を抑制する」(8%)、「使い捨てプラスチック製のストローやスプーン、フォーク等を提供しない飲食店を紹介・応援する」(7%)。</li> </ul>	<p><b>(問16) みどりの保全・育成、生物多様性の保全の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各施策とも支持する人は80%以上。</li> <li>支持する人が90%を超えた施策は、「みどりの機能をまちづくりに生かしていくグリーンインフラの取組の促進」(93%)。</li> </ul>	<p><b>(問24) 地域での環境保全活動、環境学習活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支持する人が80%を上回った施策は、「学校や地域と連携した環境教育・環境学習の推進」(84%)と「感染防止対策に配慮した参加機会の確保」(82%)。</li> <li>「オンライン講座や啓発動画など、家庭で学習できる機会の充実」は、支持しない人が6%。</li> </ul>

各分野の施策（市の役割）の検討にあたり参考とする（令和5年度予定）。

<各分野共通>

- 各分野・施策とも、社会・経済への効果や生活に支障がないことを条件に、施策への支持を回答する人が一定程度いる。

